

生徒のみなさんへ

京都府立洛北高等学校
 京都府立洛北高等学校附属中学校
 校長 山本 康一

学校再開にあたって ～新たな行動様式の構築について～

新型コロナウイルス禍を被災された方には心よりお見舞いを申し上げます。

また、みなさんは、夢と希望を膨らませて新学期に臨んだものの学校再開が大幅に遅延し、各種大会・研究会等の中止はいうまでもなく、日常の部活動や学究活動等さえできない状態が続いています。社会の状況も、経済活動が閉塞状態で家庭の収入が減少し、今後の進路に大きな悩みを抱えている生徒のみなさんも少なくないかもしれません。大卒・高卒の就職も来期がどのような状況になるかは不透明な状況です。そのような中、自らのモチベーションの維持や学習の進捗、体力の保持に努力している生徒のみなさんに衷心より敬意を表します。

ようやく、本校では、登校日を設け段階的な取組を経て6月1日(月)より学校を再開することとなりました。今後、従来のような学校生活は過ごせないかもしれませんが、学校としてはできる限りの支援をしていきます。ともに頑張っていきましょう。

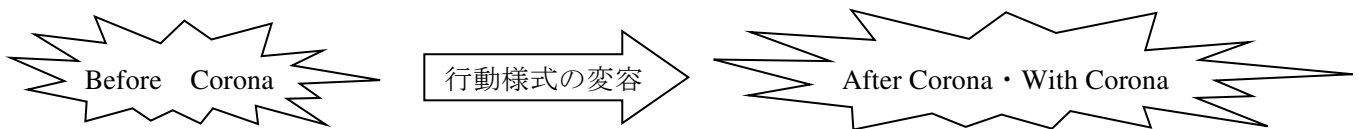
「With Corona」という言葉が散見されます。今後しばらくは、新型コロナウイルス対策を意識しながらの「新しい行動様式」が求められます。これまでの行動が大きく制限されたり、真逆の行動が求められたり、価値観さえ変容していくことになるかもしれません。しかし、これが社会のグローバルスタンダードになっていくかもしれません。そういう行動様式を正しく理解し活用できる人間になることは必要なことでしょう。

今、社会でよくない現象も見られます。我々のライフライン、物流を支える業界の方がいなければ生活物資は枯渇してしまいます。医療に携わる方がいなければ、医療崩壊し安心して過ごせません。身にリスクを抱えながら、まさしく懸命に社会に貢献している方々やその家族縁者に対するヘイト現象、コロナハラスメント等が懸念されます。このようなことはあってはならないことです。正しい知識・理解を持つことと、それを普及し、多くの人繋がることで回避できます。「ブルーライトアップ運動」も世の中を正常化しようとする象徴的な行動の一つです。

学校で、最も心配していることの一つは、行動様式の変容により、コミュニケーションが不足するために生じる様々な弊害です。学校でも、みなさんが、正しい知識・理解と行動をもって、多くの人と繋がることで、さまざまな弊害を回避することができます。人類は厳しい試練を越えたときに新しい広がりのある社会を構築してきました。今般の新型コロナウイルス禍もその一つであろうと思います。みんなで協力して、大きな試練を乗り越えてほしいと思います。

以下、いくつかの行動の変容の例をあげます。行動は変わっても、人の気持ちや考えをしっかりとくみ取り、正しく理解し行動できるようにしてください。

記



【 例 】

マスク着用は随意
 ゴミは分別で
 待合などで間隔を詰めて並ぶ
 ロッカーは教室内にあった
 挨拶は元気に大きな声で
 授業時教員は生徒に向かって大声で

 親友と肩を組んだり握手したりする
 車両内でのお喋り
 食事の前には手洗いを

常時マスク着用・咳エチケットの励行
 使用後のティッシュ、マスクは持ち帰り正しく処分を
 適度な間隔をとり、「うっかり割り込み」に注意しよう
 教室内を広げた分、廊下での譲り合いにも留意しよう
 声を出せない場面では、会釈や仕草で表現しよう
 生徒の正面を避け横方向や黒板に向かって発話も。聞き取りやすい授業環境をみんなで作ろう
 身体接触は極力控えましょう
 車両内では向き合わず会話を控えましょう
 こまめな手洗い。できれば消毒ペーパー・薬剤等の携行

学校昼食は集まってお喋りしながら
窓は閉じられていることが多い
紙資料による集会での長時間の説明

机移動し向かい合ったりせず自席で静かに。食べ終えてから
会話は広い空間で
冷房稼働時でも、休憩時には短時間でも全開放で換気
デジタル資料配信、短時間の会合。熟読習慣をつけよう

新型コロナウイルス感染症について

1 新型コロナウイルス感染症は飛沫感染と接触感染により感染すると言われています。そのことを防ぐことができれば感染のリスクは低下するので、必要以上に恐れることはありません。

○ 他の人から感染しないか心配です

→ ワクチンや薬が開発途上で、未だ解明されていない点も多いため、強い不安や恐れを感じてしまうこともあります。感染しないよう行動すれば、感染のリスクを下げることは可能です。一方で、症状がなくても感染している可能性があるため、自分が他人に感染させることがないように行動するエチケットやマナーも大切です。

○ 感染している人に触れると感染しませんか

→ 触れるだけでは感染しません。閉鎖された空間で、感染している人が近距離で多くの人と会話するなどの環境では、感染者の飛沫と一緒にウイルスが放出され、他の人がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。また、感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の人がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻、目を触れると粘膜から感染する可能性が高まります。そのため、手洗いは大変重要です。学校においても、友達や教員とでお互いの距離を意識し、大声、正面、極近距離を避けることにより感染リスクを下げることができます。通学でも密集を避けるようにしましょう。

2 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するためには、人と人との接し方に十分気を付けることが必要です。それが【3密（密閉・密集・密接）】を避けることです。

感染のリスクは自分の行動で大きく下げることができます。社会全体が長期間にわたり、このウイルスと共生していかなければならないことから、感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減するためにも行動様式を切り替える必要があります。次の具体例を参考に行動様式を変更していきましょう。

【感染防止の基本】

※感染防止の基本は、①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いです。

○人との間隔（身体的距離）は、できるだけ2メートル（最低1メートル）空ける。

○会話をしている際は可能な限り真正面を避ける。授業の場合、授業者の声が聞き取りにくいことも想定されます。みんなで静かな状況をつくりましょう。

○学校教育活動では通常マスクを着用。特に近距離での会話や発声等が必要な場面では飛沫を飛ばさないようマスクの着用を徹底。使用後ティッシュやマスクは正しく処分。

○家に帰ったらまず手や顔を洗う、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。

○手洗いは30秒程度かけて水と石鹸で丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。

○不要不急な外出は控え、外出した場合は、誰とどこで会ったかをメモしておく。

【日常生活】

○咳エチケットの徹底 ○こまめな換気 ○毎朝の検温や風邪症状の確認と健康チェック

○発熱等の風邪症状がみられる場合には自宅で休養 ○食事の前後には手洗いを徹底する。

○向かい合わず、会話は控えて ○飲み物の回し飲みは避け、個人のコップやペットボトルを使用する。

3 誤った情報に振り回され、他人を傷つけることがないように、正しい情報により適切に判断・行動することが大切です。

新型コロナウイルス感染症に関する誤った情報や認識に基づく、感染者、濃厚接触者、医療従事者等やその家族に対する不当な差別、偏見、いじめ、SNSでの誹謗中傷等は重大な人権侵害です。そして、この感染症は、真偽のわからない情報から不安が生まれ、不安が偏見や差別を生み、差別を受けることが怖くて熱があっても休むことをためらう人が増えることで更なる病気の拡散につながることも危惧されています。憶測やデマに惑わされず、冷静に行動するとともに、誰もが安心して学校生活を送れるよう、人権を大切に行動をしていきましょう。